

2024年3月期第1四半期 決算説明会 質疑応答要旨

【業績】

Q: 24/3 通期予想における車両増産見込みは、どの程度か教えて下さい。

A: 年初公表では、半導体の需給など、先行き不透明な部分を踏まえ、通期の車両台数前提に、9%程度の減産リスクを織り込んでおりました。それに対し、第1四半期の好調な実績と、第2四半期の内示の一部を取り込み、下期は年初公表の物量を据え置きとしたため、年間では6%の減産リスクを反映した水準になっております。

Q: 24/3 通期予想を実現する上で、不安材料があれば、教えて下さい。

A: 懸念点は2点あります。1点目は、中国地域でBEV化が進む中、中国の民族系メーカーが売れており、相対的に日系含む外資系の販売の下振れが予想されることです。2点目は、タイでのローンの与信厳格化により、車を購入するときのローンが通りにくくなり、足元で販売の下振れが起きていることです。

Q: 北米の採算状況について、収益改善が進んでいるようですが、どのような変化があるのか教えて下さい。

A: 北米が、第1四半期黒字化となったのは、価格転嫁と固定費削減の効果です。これらにより、電動化と安心製品を生産する デンソー・マニファクチュアリング・テネシーの収益が上がり、北米全体を引き上げました。今後も、継続して収益改善を進めてまいります。

【部材高騰】

Q: 部材高騰の状況について、教えて下さい。

A: 素材費・エネルギー費の高騰は、落ち着いてきている一方、半導体の高騰は依然続いています。

【電動化】

Q: 外部環境が変化する中、26/3 期インバータ生産台数 1,200 万台の達成確度を教えて下さい。

A: トヨタに加え、トヨタ外販も進んでおり、順調に進捗しています。

【自社株買い】

Q: 過去2年第1四半期決算で自社株買いを発表してきましたが、なぜ今回は実施しなかったのか教えて下さい。

A: 自社株買いは、資本構成や株価動向を考慮しながら、適切なタイミングで機動的に実施する予定です。

以上